

# 多賀工業会 東京支部会報

2003年 8月 第6号



日本丸（横浜、桜木町にて）

平成14年12月編集部撮影

多賀工業会 東京支部

事務局

東京都豊島区池袋4-4-8（〒171-0014）

（株）渡辺建築事務所内 渡辺 益男

電話 03-3987-1946

# 2003年 第6号 目次

	表紙説明	表2
報 告	第23回東京支部総会開催のご案内	1
	東京支部長挨拶（第22回総会に当って）	1
	第22回東京支部総会報告	渡邊 貢 2
	平成14年度東京支部会計報告	3
	平成15年度東京支部予算案	3
支部めぐり	埼玉支部は同好会の活動が活発	原田 昭平 2
	随 筆	
	工専時代の思い出と多賀工業会について	関口 利男 4
	東京支部について考える	渡辺 益男 5
	大学時代の思い出	横山 亨夫 6
	音楽と私	橘 弘 7
	私の夢－放射性廃棄物を利用した深海の開発	関 晋 8
	ふたりの終の棲家	兼子 八郎 10
	PC周辺機器に携った企業人生	内山 弘 12
記 事	第3回多賀いちょう会ゴルフ大会	桜井 衛 13
	東京支部に「山遊同好会」が発足	小宅 仁 13
	囲碁同好会その後の活動状況	山下 正明 14
	堀切菖蒲園で第1回撮影会	山崎慎一郎 15
お知らせ	東京支部の組織と担当役付名	編 集 部 16
	東京支部幹事会名簿	17
	平成14年度会費納入者	編 集 部 18
	多賀工業会のホームページ(HP)を見よう	玉川 信二 19
	東京支部に「写真同好会」を新設	玉川 信二 20
	編集後記	20
	多賀工業会東京支部会則	表3
	広告	表4

## 表紙の説明

曾て七つの海を飛ぶように航海していた日本丸。  
 今は横浜の港に係留されている。人生の縮図を見る思いだ。  
 しかし海員の訓練船として現在も活躍している。  
 われわれ多賀工業会会員も、社会に役立つよう日本丸同様に頑張ろう。

表紙の題字は杉山 六郎会員（昭24専舶）



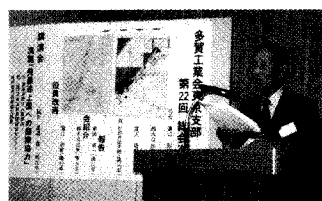
# 第22回東京支部総会報告

渡邊 貢 (昭26原動)

第22回東京支部総会は、平成14年10月19日(土)東條会館(インペリアルパレス)5Fで開催されました。来賓として、就任間もない本部理事長 村野井徹夫(40電気)、栃木支部長代理 滝 宏(33原動)、埼玉支部長 原田昭平(23機械)、千葉支部長代理 大和田武義(32電気)、いわき支部長代理 駒木根和(55短化)、静岡支部副支部長 高田 勲(37機械)をお迎えして総会、講演会、懇親会が順調に進められました。理事長の挨拶では国立大学の法人化は既定のとおり進められています。大学では18歳人口が減少する中で、これからどう発展させるのか、工学部だけの問題ではなく、大学全体の協力が必要なこと、ITの世の中といわれる社会では、同窓会もインターネットを大いに活用すべきである。同窓会は年配者のサロンとなりがちだが、支部でも独自のホームページを開き交換することにより、若い人達が参加する契機にもなると思う。と激励された。

渡辺支部長から都内居住者が減少の傾向にある中で会員の増強を計るためには、お世話役として若い

方々に参画していただき、ゴルフ、囲碁、写真などの同好会活動の立案と実施のご協力をお願いしたい。との挨拶があった。



講演中の荒川宣夫氏

講演会には、日本消防設備安全センター特別参与として政府開発援助事業に長い間参画された荒川宣夫氏(23通信)を講師として迎え、「発展途上国への国際協力」について講演をしていただきました。政府開発援助(ODA)の始まり、技術協力、無償資金協力、我が国の無償資金援助10大供与国など、ODAの実状の説明があった。中国(北京)、ガテマラ、ベトナム、カンボジア、ペルー、イスラエル、パレスチナなどの各国に飛び、10数年間従事したODAの体験から、スライドと豊富な資料の説明があり、各国の文化、風土、習慣にも触れて説明があった。会員の方々には自社製品の輸出、技術援助など直接関わりをもたれた会員も多く、終始熱心に聴講され、ODAの話題が懇親会に持ち込まれました。互いに実績を回顧し、確かめ合い、話に花を咲かせている情景が数多く見られました。

## 支 部 め ぐ り

## 埼玉支部は同好会の活動が活発

埼玉支部長 原田 昭平 (昭23機械)

多賀工業会埼玉支部は、昭和50年10月18日に、県南の川口市青木会館で、有志の方々の努力で発足総会を開催し、本年4月20日の総会で28回を迎えることになりました。

第10回の総会までは、青木会館で開催しておりましたが、その後は浦和、大宮、熊谷、入間、岩槻、所沢など各市に場所を移し、PR活動を行い出席者の増加につとめてまいりました。現在は50名以上の出席者になりました。開催場所も現在はさいたま市の「ラフレさいたま」で落ち着きました。交通の利便性がいいようです。



支部の活動としては、以下の同好会が活動中です。

### 1. 多賀むさしの会 (ゴルフ)

平成2年3月28日に入間カントリーで第1回のコンペを開催、15年3月で27回目になりました。各回とも5-6組でスタートし、懇親ゴルフを賑やかにやっております。最高令者は16年卒の林義雄さんです。皆さん益々元気で頑張っています。

### 2. ワンダーフォート

平成6年4月17日に秩父琴平丘陵で発起人の斎田氏以下10名で第1回の会を開催、その後年3-4回の撮影

会を行なっています。現在会員は30名、年1回は1泊旅行も開催、毎回20名位の参加があり、和気あいあいと楽しんでいます。

### 3. 囲碁クラブ

発起人の関、柳田、宇留野氏のご努力で平成10年8月23日に越谷市で第1回の会が発足して、以来15年2月で19回の開催になりました。会員数は33名、年4回の対局を行ない、うち1回は1泊でやっています。腕前の方は2級-6段まで、それなりに愉快にやっております。

### 4. 宿坊むさしの (俳句クラブ)

平成10年4月に立花氏を発起人として5名で発足しましたが、埼玉は文化人が少ないようで、なかなか会員が増えず、定例会がもてない現状です。文通で活動しています。

同好会は以上ですが、支部としては会報の発行に努力しております。本年度は11号を発行いたしました。会員相互の絆は会報が唯一のものなので、近況報告など身近な記事を取り入れ、皆様に親しまれる紙面作りに、編集者は努力しております。

東京支部は距離的にも近いので、お互いに交流をしていきたいと思っております。今後とも仲良くやっていきたいと思います。

# 平成14年度 多賀工業会東京支部会計報告

(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

収入の部	金額 (円)	支出の部	金額 (円)
前期よりの繰越金	177,051	第22回総会会費	574,053
第22回総会会費 工専17名 大学43名	600,000	懇親会費	467,352
寄付	70,000	講師謝礼	50,000
年会費	660,000	講演会資料・出席者名簿作成	23,060
本部援助金	250,000	後納郵便料 出欠回答はがき	19,760
会議費	44,000	雑費リボン、土産代、交通費	13,881
広告料	25,000	会報製作費	641,953
		編集、印刷費	469,700
		発送配布	172,253
		打合せ会議費	175,103
		7回 延べ59名	
		旅費・交通費	120,240
		仙台、いわき、栃木、千葉、埼玉支部へ出席 支部対抗ゴルフコンペ3名	30,000
		通信費	5,345
		雑費 コピー代	5,600
		次期繰越金	303,757
合計	1,826,051	合計	1,826,051

上記の通り相違ない事を認めます。  
平成15年 3月31日

会計係 溝口 知昭



監査 近江 義勝



# 平成15年度 多賀工業会東京支部予算案

(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

収入の部	金額 (円)	支出の部	金額 (円)
前期よりの繰越金	303,757	第23回総会会費	800,000
総会会費 8000円×100名	800,000	懇親会費	700,000
年会費 2000円×400口	800,000	講師謝礼	50,000
本部援助金	250,000	その他経費	50,000
広告料	50,000	会報発行費	700,000
		編集・印刷費	500,000
		発送配布	200,000
		会議費	300,000
		旅費・交通費	200,000
		予備費	203,757
合計	2,203,757	合計	2,203,757

# 工専時代の思い出と 多賀工業会について

関口利男（昭19電気）

昭和17年4月に多賀高等工業学校入学で、昭和20年3月卒業の予定であったが、戦時中の特別措置によって、昭和19年9月の繰上げ卒業になった。したがって卒業以来まさに半世紀以上（60年）を過ごした戦前・戦中・戦後育ちの卒業生である。教育課程も戦前の旧制度で、中学校5年、専門学校3年で、戦時中の中堅技術者の教育養成機関であった。



## 入学当時（多賀工専）の思い出

入学当時の名称は“多賀高等工業学校”であったが、1年後には“多賀工業専門学校”と改正になり、通称“多賀工専”と呼んでいた。因みに昭和37年に新しく発足し、現在殆どの各県に設置されている（現在、国立54校、公立5校、私立3校）新制の修業年限5年の工業高等専門学校、例えば“茨城工業高等専門学校”は、“茨城高専”が略称で、発音は同じだが中身は“工”が“高”となり、その教育内容も当然大きく異なっている。中学校時代憧れていた“高等工業学校”が“工業専門学校”に変更になっても殆ど反対もなく、無関心であったように思う。

このように名称が変更になっても教育課程などに変化は感じられず、もっぱら与えられた授業計画に従って徹底したあてがいぶちの管理教育であった。今考えれば、この教育方針や課程にはいろいろ批判もあると思われる。しかし私にとっては、強制的であったかもしれないが、ある程度納得のいく理解力もつけられたし、計算尺による計算力も身についたように思い、素直に満足していた。そして思い出せばきりがなが、特徴ある綽名で呼ばれるいわゆる名物教

授も多かった。

当時の学校生活は、入学時1年生は全寮制で、寮監と寮長と室長の監督・指導で起床・消灯・登校など同一行動が慣習になっていた。だが中には不服従者もあり、特に学校周辺の集団駆け足、体操などの時には姿を消すものもあり、それらに目を光らせているもの、逃れようとするもの、いわゆる鮎（いたち）ごっこである。マント・腰の手ぬぐい・ホウバの高下駄に憧れ、管理社会の中学校からの開放感を期待していたものにとっては些か期待はずれであった。生徒主事や寮監には反発心もあったが、将来を考え只管我慢の服従だった。1年の終了時、寮生に相応しくないという理由で“鮎川寮”（旅館の一部）に強制移住させられ、心穏やかでなかった。当時も密告者はいたらしい。理由は記憶がない“寮雨”であったとか。この寮には前歴の良からぬ先輩もあり、堅苦しい規則もなく、案外自由な環境だったように思う。

戦時中であったが各科の授業・実験・実習は平常通り2年6ヵ月行われた。もち論この間、教練・体操・作業（主に学校周辺の整地労働）など勉強以外の課外活動に重点が置かれていた。当時の校長の戦時下における厳しい教育方針の表われかもしれない。

## 多賀工業会（茨大工学部卒業生 同窓会）の発展を望む

多賀工業会の会員構成が多賀工専と茨城大学工学部の卒業生を中心にしていることを考えると、工専卒業生はきわめて少なく、大学工学部卒業生が圧倒的に多い。事実名簿を見ても、工専卒は僅か最初の60ページ、全体の10分の1程度で、大学院を含めた工学部の卒業生が工業会の主体であり、活躍の場になっていると思われる。教育組織の名称が変わり、在学期間も3年と4年の差はあっても、工学部卒業生を後輩と思っているのである。時には、面識がないと思っても同窓生であることを紹介されると、何となく気楽な雰囲気になり、同窓のよしみを感じられるのである。（以下次頁へつづく）

# 東京支部について考える

東京支部長 渡辺 益男 (昭19専精)

今年も東京支部総会を迎えることが出来ました。御参加の皆様にご心からお礼申し上げます。

最近強く感じる傾向は20数年前この会を始めた当時、工専時代の卒業生が50名を超えていたのですが、近年大変少人数になってしまいました。

工専第1回卒業の方々には80歳を超える高齢になられ、色々困難なことが多くなったのではと推測されます。

かつ、当初から多大な御支援を戴いた原動3回卒の東條社長や東京支部初代石井支部長をはじめ、御逝去になられた方々もあり、残念に存じます。

大学卒業生は、年々増加し、若い世代へのバトンタッチの時代になりましたが、現状は、昭和40年卒以降の出席が非常に少ない状態です。



現役の若い方々は仕事に振りまわされて、ついつい欠席勝ということは、当然考えられますが、折角出席した方は、期待した話相手が見付からなかったというつぶやきも耳に致します。

こんな状態を年々繰り返していると会は縮小してしまうのではないかと不安になります。同窓の結び付は、学窓を同じくした仲間だけの特権で、同窓による助け合い、情報交換、親睦などを考えると、永続させなければなりません。長い人生における貴重な御縁を大切にしたいと思えます。

この集まりは、毎年同じような年中行事であっても、年々歳々花相似たりといわれるように年毎に活気が加わるものでなければと思います。

そこで、これからは、若い方々がお世話の出来る幹事に加わっていただき、新しい提案やら、各職種への呼び掛け、同好会のすすめ方など、盛会にするための相談をお願い致します。

もう一度、創立時のような初心を呼び戻したいと考えております。

皆様の御隆昌を祈念しながら、会へのご協力をお願いし、御挨拶といたします。

(前頁よりつづく)

これを奇縁というのかもしれない。貴重な感情である。

発足以来60有余年の歴史を持つ工業会の会員の中にはいわゆる官・業・界、学・協・会など各界において沢山の方々が、顕著な業績を挙げ、高い評価を受けていることは誠に頼もしく、同窓生として大きな喜びである。そして数年おきの名簿を拝見し、いつも誇らしさを感じている。

卒業当時あるいは暫くは同窓会の意義あるいは有難みは感じられないかもしれないし、一生無いかも知れない。私も卒業当時は全然関心がなく、ただ卒業生なるが故に会費を払い、しかるべき同窓会誌を拝読する単なる同窓会の一般会員であった。しかし、年配になり20~30年も経つと、卒業後の母校は？先輩は？同僚は？後輩は？と思出し、その消息を伺いたくなるのである。

## 会員の増強は同僚への 献身的な勧誘の努力が必要

多くの同窓会は名目はどうであれ、年に1度位の総会・懇親会を催すことが多い。これに参加すれば先輩・同僚・後輩・母校の様子など伺うことができ、会員としての認識あるいは恩恵を味わうことができるわけである。しかし、案内を頂いても参加するには少し勇気がある。たまたま同僚でもいれば同僚を通じて話が進むが、ただ1人だったら悲惨であり寂しく、次回の参加を躊躇することになる。盛会にする名案はないが、役柄の付いている方々の献身的な勧誘の努力が必要に思う。無意識に協力し合う雰囲気、同窓会などの運営には是非必要な環境と思われる。

母校が母校出身の学長を中心にして、更に充実した活力ある大学に進展し、これを支える同窓会の一層の活躍を望んでやまない。

# 大学時代の思い出

横山 亨夫 (昭31機械)

## (1) 水戸での寮生活

工学部の学生は、水戸で1年間の教養課程を履修し、その後日立に移ることになっていた。私は入寮を希望し、当時学内にあった寮に入った。水戸には、文理学部・教育学部の学生がおり、学部の区別なく部屋に押込まれた。同室には、新入生で勤勉な山崎(原動)・加藤(金属)、豪放磊落な芦部(原動)・ポッチャン風の有賀(文理)各君と他数名いた。新入生が多かったので気心がよく合った。寮の夕食では物足らず、毎晩のように誘い合って、校門近くにある『やきいも屋』に通ったものだ。私の対人関係の原点はここで培われたといっても過言ではない。

## (2) 水戸での下宿生活

夏休み始めに退寮した。空腹に耐えられないため！休み明け、親の友人の紹介で、藩に係わりのあるという母娘の家庭にご厄介になった。時折、木琴奏者の和田肇さんの奏でる美しい音色を聞くことができた。母娘は整理整頓・礼儀作法が厳しかった。玄関での送り・迎え、食事の介添え、遅帰りのご法度など。人間贅沢なもので、もう少し自由が欲しいと訴えたところ、虫の居所が悪かったのか、冬休み始めに追い出されてしまった。不徳の至す所だ。お二人に色々ご指導頂き感謝している。休み明け、叔母の紹介で水戸駅前のT堂の社長宅に転がり込んだ。このお宅には勤め人が大勢いて、学生同志とは違った人間関係を勉強させられた。おまけに、子供の家庭教師を経験することができた。水戸での生活は1年という短い期間であったが、将来の自己形成の基礎になったと思う。

## (3) 鮎川での下宿生活

日立に移ってからも下宿生活を続けた。鮎川の海辺の離れ家だった。ここには、先客がいて同居が



小樽運河にて妻と写す (平成14年9月)

条件だったが、お願いした。食事・風呂は母屋で、寝泊りは離れ家だった。先客は1年先輩のAさん(原動)で、1年間寝食を共にした、質実剛健・不言実行を地で行く人で、見習うべきことが多かった。夕食後、食料を調達し話合うことが多かった。時には地平線が白むのを気づかないこともあった。ここでも、1年という短い期間であったが、Aさんにはこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

## (4) 日立での寮生活

3年になって再び寮生活に戻った。吼洋寮で学生最後の寮生活を送りたかった。部屋は同期だが寮では先輩に当たる瀬戸・田中(機械)両君と同室にもらった。ご両人、人より一歩先を見る行動派、見習うべきことが多かった。また、岡田先生ご指導による卒研を共にした。ここでも、夕食後の腹ごしらえは自分達で工夫したものだ。米・味噌以外は近所からの頂き物が多かった。下宿生活をして来た私にとって抵抗があったのは、衛生環境で、慣れるということに恐ろしいことで、知らぬ間に無抵抗になっていた。ここでは、麻雀・ダンス・酒・煙草を覚えた。寮ならではの経験だった。当時、共通の楽しみの少ない寮生活にとって、年数回行なわれたダンスパーティーは華やかで、楽しみだった。

## (5) 裸の付き合い

日立市内の商店街に銭湯があり、番台に手拭・石鹸を預けておいた。時々、風呂浴びてから映画鑑賞、赤提灯に出掛けた。赤提灯には民謡のレコードを預け、唄の練習をしたものだ。一方、銭湯では偶然、日立製作所のHさんと知り合いになり、裸の付き合いをさせてもらった。お宅に招かれ、奥さんの手料理をご馳走になったり、卒業の際は送別会を開いて頂いた。忘れられない思い出である。

## (6) 野球同好会

工学部には、野球同好会があった。授業が厳しく、なかなか全員が揃った練習は難しかった。2~3年が中心のチームだった。チームの主役は、剛速球投手の目黒さん(機械)、軽快な動きでボールを捌くショートの大塚さん、サードの横山などで構成されていた。水戸の野球部と親善試合をし善戦した。それからは、工学部の3名が加わり、茨城大学合同野球部となった。特に、毎年行なわれる関東甲信越(国立大学)体育大会に出場した。成績は定かでない。また、お隣の茨城キリスト教大学と定期戦も行ない美酒に酔ったものです。卒業後お二人にはお会いしてないのが残念だ。また、同好会の方々のお名前を思い出せなくて申し訳ありません。

さて、最後に4年間を振り返り、学ぶ大切さもあるが、人間関係がどれほど大切か、身に沁みて思うこの頃です。

# 音楽と私

橘 弘 (昭38電気)

大学時代、余暇には吹奏楽団に入り、クラリネットを吹いた。指揮も任され、私はかなり熱心なメンバーだった。ここでは、海外で体験した2例を振り返ってみたい。



## 音楽には国境がない

私はコンピュータ関連の仕事で何回か欧米を訪問したが、音楽は余暇に生かされた。向こうの家庭に招かれて夕食後お礼をいうのに、慣れない言葉では“靴の上からカユイ足を搔く”感じて旨く伝わらないが“お礼に楽器を演奏します”というのと全てが旨く行く。米のキングストンで私は招待してくれた同僚の子息と合奏をした。トミーのトランペットと私のクラリネットと、日本の“荒城の月”とアメリカ民謡“峠の我が家”を演奏したのである。

小学生との会話は難しいが、五線紙の音符を仲介してアレンジすると、合奏を可能にし、正に“音楽には国境がない”のである。快いハーモニーが人々に感動を与え、御両親は我が子と初めて会った異国人とのデュエットの響きに驚いていた。その後は喜びながら、涙を流して聴いてくれた。

ある夜、ニューヨークのバーで私は静かにお酒を飲んでいて。妙な酔っ払いに絡まれて弱ってしまった。日本人と厭な関り合いがあったのか、悪意に満ちた形相からして快く思っていないのは明白だった。そろそろ出ようかと思っていたら、室の端の方のピアノが目についた。

私は立ち上がりピアノに向かって歩いた。近寄ってみると、鍵好きの国民性にしては珍しくロックがなく、蓋を開けたら白と黒の鍵盤が日に飛び込んできた。私は椅子に座るとそのままピアノを弾き始めた。国歌“星条旗よ、永遠なれ！”である。お酒を飲んでいる人達は、ピアノの音がするな、と思うものの、初めはさほど興味を示していなかった。

しかし、その曲が、国歌“星条旗”だと判ると、店の雰囲気がガラッと変わった。一瞬、静かになってから、多くの人々が歌い出したのである。立ち上がって一同に集まり、人と人が腕を組んで輪を作り始めた。大きな身体をゆすりながら、如何にも愉快そうに国歌を口にした。日本人のお客が“星条旗”

を弾き、期せずしてアメリカ人が合唱したのである。ピアノと歌声が一体になって店内の雰囲気を盛り上げた。

私は弾きながら何ともいえないほど充実してきた。周りの大きな声と音の圧力を身体で受けて、心地良く音楽に酔ったのである。

一方、“酔っ払い”といえ、店の雰囲気から形勢の悪さを感じ取り、急に元気がなくなった。何処だろう？と出口を探して、背中を丸めて、トボトボと外へ出て行った。

## 国内の体験と近況

今も“つくば”の市民吹奏楽団に入り、音楽活動をしている。メンバーは80人程で大きな団である。先週、定期演奏会を終えたばかりで猛練習をした熱気が残っている。演奏会後の打ち上げ会では、若い20代、30代の人達と音楽談義に花を咲かせている。ここでも還暦を過ぎた私は、最高年齢である。音楽という共通の話題があり、一緒に演奏したから年齢差による違和感はないのだろう。自分の娘ほどの若い人と対等にワイワイ談笑し合えるのである。それは楽しくもあり、若返る思いだ。

他の吹奏楽では施設を訪問し、音楽の慰問活動をしている。また、大きなリハビリ専門の病院では、夏の納涼会に音楽を提供した。車イスの人達が半数を占め、200人近い患者さんを相手に、ひとり出ずっぱりの45分間だった。クラリネットとピアノの独奏は大変喜ばれた。本当にやって良かったと実感している。

## 音楽をやるメリット

- 年令に関係なく長い間、継続できる。
- 仕事がキツイ時には、気分転換が出来る。
- 仲間と合奏すると、音色と和音を楽しめる。
- 音楽の提供で喜んでもらえることもある。

昨年、日本IBMを定年退職し、ここで振り返ってみたい。大過なくやってこれて、世の中の人々に少しはお返しをしたい気持ちがある。音楽の慰問は、そのひとつかなと思う。

音楽は私にとって切っても切れない大切な関係がある。常にどこかで何かにつけてつながりが出来ていた。深い想いの人々とも音楽が関わっていた。そして音楽は私の人生にきれいな彩りを付けてくれた。“音楽は、心の泉”である。これからも出来る所まで続けて行きたい、と思う。

# 私の夢—放射性廃棄物を利用した深海の開発

関 晋 (昭38精密)

本題はちょっとおかし  
いが、原子力の研究開発  
に携わってきた者の一人  
として、目の黒い内に副  
題を実施に移すこと、そ  
れが長年持ち続けてきた  
私の夢である。



わが国は、いま未曾有  
の不況に苦しんでいる。失業率は、5.5%にも達  
し、もはや従来の公共投資ではどうにもならない  
ことはすでに証明済みだ。ここで新産業・新雇  
用の創出が早急に待たれるところである。

ここに本提言が構造改革をとえたる小泉内閣に  
とって起死回生の救世主となり得ることは必須  
であると信じるし、そうなることを願っている。で  
は、本題に入ろう。

近年、産業の高度化に伴い、環境汚染をもたら  
す破棄物が多く排出するようになった。今や、わ  
が国の総発電量の4割を占めるまでになった原子力  
発電によって生ずる放射性廃棄物も、そのままの  
形で放置するなら、人体に何らかの悪影響を及ぼ  
すゴミのうちのひとつといても例外ではない。

この厄介物の廃棄物と、やはり人間の進出を頑  
に拒む深海(水深500m以上)とをドッキングさせ  
るシミュレーションを机上で試みた。そうしたと  
ころ、厄介物扱いだった双方にとって相互に補足  
しあい、それとは逆に無限ともいえる富を得られ  
ることが推論された。以下、深海と放射性(ここ  
では高レベルに限定)廃棄物の特質を説明しなが  
ら得られる効果について言及していきたい。

## 1. 深海の特質

海洋は地球表面の70%強を占め、水深は平均  
3,800mにもなり、深いところでは10,000m以上に  
達する。したがって、海洋が優れた隔離効果と膨  
大な水量による希釈能力を有することは誰もが認  
めるところである。また、有史以来、地球表面の  
いかなる過酷な変化(例えば、氷河期および間氷  
期の繰返し、あるいは極の転換など)に対しても、  
深海は比較的安定した環境を保ってきた。これら

をうまく活用しない手はない。さらに詳しく述べ  
れば、一般的には次のようなことが上げられる。

海中における水圧は、海表面からの深さが10m  
増す毎に約1kg/cm<sup>2</sup>ずつ増す。したがって、水深  
5,000mの海底では水圧は500kg/cm<sup>2</sup>ということにな  
る。海水の比重は1よりわずかながら大きいので、  
圧力はそれ以上になる。水温は深さとともに低下  
し、水深2,000m以上では1℃~2℃の低温となる。  
これは極地方の冷たい水が沈み、潜流しているため  
である。深海付近の水の流れはごく弱く、1cm/sec  
内外である。海洋では表面から500mくらいまでし  
か太陽光線が届かないので、それより深い層での  
生物活動は極端に少ない。深海底には動植物の屍  
あるいは宇宙塵からなる堆積物があり、それらは  
栄養塩類がきわめて豊富である。また、陸上で生  
産された二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)は海水に吸収され、比  
重が大なることから沈降して、高い濃度で溶存し  
ていることである。同時に海水はウラン、カリ40、  
ラドンなどの放射性物質が溶け込んでいる。

## 2. 放射性廃棄物の特質

一方、再処理施設などから発生する高レベル廃  
棄物の対策を国は、廃液タンク貯蔵→ガラス固化  
処理→固化体の貯蔵(工学的貯蔵)→隔離(地層  
処分)というシナリオで計画を進めている。ここ  
では、このガラス固化体に着目した。

この廃棄物(ガラス固化体)は、放射性核種の  
崩壊熱により表面温度が400℃あるいはそれ以上の  
高温に達し、その温度が100℃以下になるまで30~  
50年の期間を要する。また、高レベル放射性物質  
であるがゆえに、水の中では放射線が水の分子と  
衝突し、そのエネルギーが光に変わり得る。(例え  
ば、シンチレーション、チェレンコフ、熱ルミネ  
ッセンス、蛍光作用等)。さらに前述した崩壊熱に  
よっても発光作用を引き起こすのである。

## 3. 得られる効果

先に述べた深海に放射性廃棄物固化体を、図に  
示したように(本図は説明を分かり易くするための

概念であって、実施をこのとおりにするとは制限していない。)例えば30~50年間留置(固化体の性能低下後は回収することが前提)したとすると、その場合に得られる効果を以下に示そう。

深海は太陽光の届かない暗黒の世界である。当然、光合成作用に基づく生物活動は極端に少ない。ここに廃棄物固化体からのシンチレーションなどによる照明が灯されれば、そこに光合成による生物(植物)の発生、棲息を可能にする。1分子のCO<sub>2</sub>が光合成で同化されるのに必要な光量子数は3~12の間であるという報告がある。シンチレーション現象のみに着目したとしても、1原子当たり少なくとも1個以上の光子を放出するのであるから、当然固化体から供給される光量は、それをはるかにしのぐものであり、光合成に基づく生物活動は十分可能といえる。また、緑色植物の光合成に有効な波長範囲は400~700nmの間にあり、ここに掲げた発光現象による光は、この波長範囲を十分に満している。その上、深海はCO<sub>2</sub>の溶存量が極めて高いことと、さらにプランクトンの餌となる栄養塩類が豊富なことも生物活動に適している。栄養塩類はいくら豊富でも光が入らないことにはどうにもならないのだ。

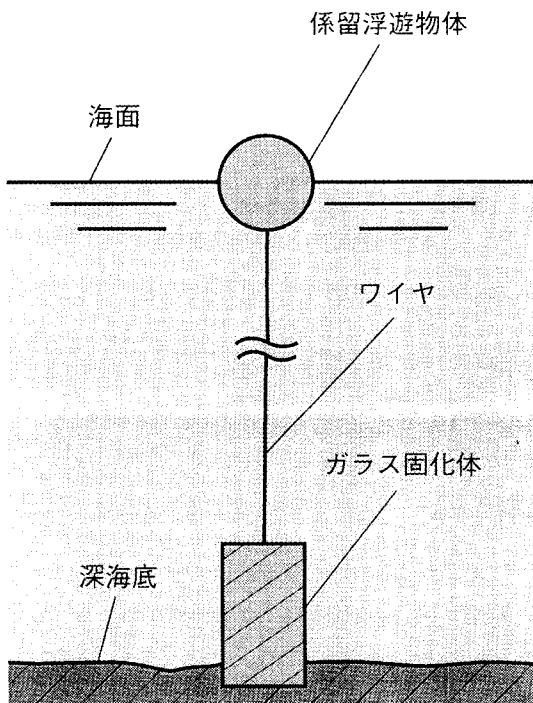


図 高レベル放射性廃棄物の深海留置の概念図

また、崩壊熱により固化体から供給される熱は、低温の海水を温め、温められた海水は上昇し、やがて固化体周辺に上下方向の対流を引き起こす。

一般に、北方の海の方が赤道付近の海より魚類資源が豊富といわれている。それは、冬期における北方の海は表面温度が0℃近くまで下がり、表層の海水が沈み、それより深い層の水が上昇して海水が搅拌されるため、魚介類の餌となるプランクトン増殖の割合が搅拌されることのない温暖な海よりはるかに高いからである。したがって、深海であっても廃棄物固化体によって生ずる対流は、プランクトンの増殖を促し、ひいては人間の重要な蛋白源である生物群の存在を十分に可能にする。

このように葉緑体をもつ植物群の生成は、深海に極めて高い濃度で沈澱するCO<sub>2</sub>を吸収し、酸素を放出するのであるから、地球環境の浄化ならびに温暖化現象の抑制にも貢献することにもなる。

一方、高レベル放射性固化体に着目すれば、深海の低温は従来、地層処分に必要とする30~50年にわたる同固化体の冷却を代替することになる。さらに深海における廃棄物固化体の役割終了後、放射線の毒性は1桁以上弱まるため、回収して固化体に含まれる資源の再利用(白金は貴金属、コバルトは線源、パラジウムは触媒、電極等々)に供すれば、高レベル廃棄物の最終工程である地層処分を必要としなくなるばかりでなく、廃棄物問題はここに完結することになり、原子エネルギーのさらなる長期利用が可能となる。

また、海水には先述したようにウランなどの放射性物質が溶け込んでいる。膨大な水量による希釈力は、たとえ廃棄物固化体から放射性物質を溶出したとしても、海水中の濃度よりも低く抑えられ、安全上問題となることはない。こうなれば、廃棄物固化体はもはや単なるゴミではなく、有力な商品に変わり得るものだ。

#### 4. その他の効果

よく氷山の一角というが、地球表層部の資源利用にとどまらず、本提言は地球深部にまで踏み込んだ、地球資源をくまなく利用する方法である。この地球の大部分を占める潜在力の開発は、今後、食料、資源などの無限の生産供給が可能であることを示唆する。

従来、近代加工産業が発達する以前の農業経済

が中心の社会では、動植物からの排泄物、屍、枯木倒木などが主な廃棄物であって、これらの処置は十分に自然がもつ浄化作用に依存できたし、それどころか再び自然のサイクル中に還元することによって、より地球を活性化させてきた。本提言は、それと同様、放射性廃棄物を活性化に役立つ古典的な廃棄物とみなせることである。

そして、利用価値のない廃棄物が同様に利用価値の少ない深海を利用することであり、その逆も成り立つことでもある。

従来、農業経済が中心のときの廃棄物は、大地に還元することによって地球の活性化をはかってきたことは既に述べたが、本提言は発想の転換をして「深海」に着目した。実現させるにはアプローチの仕方その他従来の固定観念を一変しなければならない。このため新規の設備投資を要することなど、わが国経済に多大な活性化をもたらす。

本提言の遂行によって、NASAが宇宙開発で多種多様な技術を取得したと同様、例えば深海用の

耐圧構造機、遠隔操作術、通信等々の多方面の分野で世界のリーダーシップになり得ることである。それと同時に、連鎖反動的に新産業を創出し、新たな人材育成にもつながる。

多少のリスクはあろう。だが、無限ともいえる収穫が確証できる本提言に、勇気をもって挑戦する者はいなであらうか。論理的に疑義、反論のある方は申し出てくれ。いつでもお答えするにいとわない。

#### 【資料】

- (1) 関 晋：高レベル放射性廃棄物を利用した深海の開発、日本原子力学会、VOL.37.NO.7 (1995)。
- (2) 関 晋：厄介もの同上の組み合わせから金の玉子を産むつくばサイエンス・アカデミー発表(2002.1)。
- (3) 関 晋：公害は完結できる、大同学院同窓会報、NO.139 (2002)。
- (4) 世界大百科事典「たんそどうかさよう」平凡社
- (5) 岩波生物学事典「光合成有効放射」、岩波書店。



## ふたりの終の棲家

兼子 八郎 (昭38年電気)

自分は四男坊で郷里に自分の終の棲家はない。若い頃は「人生至る所に青山有り」と気取っていた。来世のこともさることながら、今生の最後の時点で自分の身の後始末をどうするかについてさえ考えていなかった。40代になってからやっと、そのへんはどうすべきかについてもあれこれ考えるようになったのではあるが、結論は出せないでいた。40代の終わり頃、現在の住居を建築した。このとき一番悩んだのが神棚を作るかどうかであった。妻とあれこれ議論はしたが、結局は作らずじまいで現在に至っている。かようなわけだから墓地の手当も出来ていない。



自分の先祖は、郷里の村にある寺が創建されたとき、開基僧に付いてきた人で、そのまま住み着いたそうである。ところが戦前のことではあるが、祖父がこの寺の住職さんと諍(いさかい)となり、

神道に宗旨替えしてしまった。1000年以上も続けてきた寺との縁を切って、別な村にある神社の氏子になったというのである。このような環境下で育って来た自分は、何となく神式で物事のあれこれをやって行くものと思って来た。

一方、妻はどうかといえば、ミッション系の学校に学んだものの、仏式の環境下で育っており、神式には何となく馴染めないようだ。戦前国家神道が果たした役割などについて、知れば知るほどそれが大きく影響してきて、遂には近づきたいものとなってしまったようである。

#### 墓地の手当ては必要か

故人や先祖を敬うあるいは偲ぶという行為をするとき、世間一般ではこの故人や先祖の墓前とか神前や仏前とかまたは位牌などの類にお参りする。しからば墓がなければどうなるのだろうか。聞くところによれば、遺骨を海に散骨することも出来るそうだ。印度ではガンジス川に散骨する例も多いようである。ホームページを検索してみると、我が国でも散骨の形態がとられ始まっているように見える。このような散骨という方法が採られた場合は墓を作らないケースもあるようだ。

今世間では少子化が進み、先祖代々の墓でも無縁墓地化しているものが少なくないと聞く。同一地域で家系を継いで行くこと自体、難しくなってきたように思われる。このような状況の下では、子が親の用意した墓地に確実に入ってくれるかどうかさえ保証の限りではない。跡継ぎが出来ないのならそうなるのは自明の理かも知れない。

来世というものまたは所があるとすれば、どんなものまたは所だろうか。来世では、神道ならば神様（祖先神）となるという話がある。仏教では仏様の弟子になるという話がある。その他天国とか地獄とか様々な所があるらしい。

自分としてはそのようなものには一切関りたくないのが本音なのだが、そうは行かないものなのだろうか。何せ心の拠り所となすべき宗教さえも決めかねている現状なのだから。

### 遺言書を書く気になったことがある

先だって喉を切開する手術を受けなければならぬ事態となったことがあった。担当医から手術の危険性についてあれこれと説明された後、「これまで1件も失敗はありませんが医者も人間ですの」といわれ、遺言書を書く気になった。このとき墓と宗教については何も決まっていなかったので、「妻の裁量で一切をやって欲しい」と書かざるを得なかった。後日その遺言書を妻に見せたら無責任だと叱られた。

だが還暦も過ぎて何かと先が短くなってきたようにも見えるこの時期、電話やチャラシによる墓地墓苑のお奨めがなんと多いことか。ふたり共そろそろ結論を出さねばならないのではないかと思うようになってきたのは、至極当然な成り行きというべきであろう。

### 神仏に関係ない来世があるとすればそこへ行きたい

神仏に関係ない来世があるとすればそこへ行きたい。色々考えているうちにそう思うようになってきた。今生でやり残したことなどがのびのびとやれたり、ふたりになってからならば、ひよっとしてこれまで嫌いだった分野が好きになって、ふたりが一緒に楽しむことなども増えたりするかもしれない。このような来世が太平洋の大海原の中にあるであろうと信じて、そこへ行く（これを今後「海へ還る」といおう）ことに決めれば、これまで悩んできたことの多くは解決されるのではないか。これなら無縁墓地化の心配もない。これまで「青山」と思っていたものを「青海」とすればよいのだ。

自分は妻よりも年長であり、男女の平均寿命的な観点だけで考えれば、自分がお先に海へ還ることになる。世間でいう墓参は、大海原の岸辺に立って声を掛けて貰えばよい。偶には舟を仕立て別れたと思われる地点まで足を延ばして貰えば会いに来てくれたと喜ぶかも知れない。柏手を打つとか、手を組むとか、そんなことはその人のやりたい放題でかまわないが、瞑日して頂くぐらいが適当なのではないか。物を頂くとすれば「飲物（今生では駄目だったが、甘酒だって好きになっているかもしれない）」と「花びら」に限り、線香の類も御免被りたい。その他音の楽しみなら今生に引き続きOKだ。家にあっては手札サイズ程度のポートレートに声掛けて貰えば十分だろう。

妻や子らがこれを受け入れてくれるなら、そうしよう。万一妻と順序が入れ替わったとしても、自分は精神的にも十分やっていけそうである。

小ロットから承ります。

[info@daikyo-print.co.jp](mailto:info@daikyo-print.co.jp)

# 大協印刷株式会社

〒110-0016

東京都台東区台東2-4-14 TEL/03-3837-5291 FAX/03-3837-5293

# PC周辺機器に携わった企業人生

山内 弘（昭47精密）

私は電機業界に32年間身を投じてきました。その中から、印象ある内容をご報告します。11年間、業務用放送機器設計を担当。残り21年はPC周辺機器に携わりました。周辺機器は大半がOEMビジネスで、顧客は大手PCメーカーです。このOEMを通じた体験を述べてみたいと思います。



1980年半ばからPCが徐々に市場に出回りはじめ、周辺機器のCPUの変貌とともに、HDD、FDD、KeyBoard、Monitorそして光系再生、記録再生装置のビジネスが立ち上がりました。私は記録装置の中で磁気記録の「3.5FDD」「光記録再生MO、CD系」を担当して参りました。

アプリケーションソフトの容量増大が進み、OSではFDが相当な枚数になる中、CDでソフト対応としてCD再生装置がいち早くApple社に採用され、業界は次々と目まぐるしい状況を迎え、その渦に巻き込まれて来た次第です。

設計担当からビジネス担当として、「FDD」「CD再生装置」から「記録再生型（CD-R/RW）」更に「DVD再生、記録再生」を受け持った時が私の企業人生で苦しくもあり、活気ある時期です。規格標準化で戦い、顧客を味方にするための行脚、価格競争対処では部品の製造、組み立てを台湾、東南アジアに進出するなど激しくも遣り甲斐ある月日を過ごせました。

PC周辺機器としての記録装置は、普及品（単なる部品）と化して、価格競争に陥り安い環境が生まれています。市場のPC需要に連動して周辺機器の需要も相当なものです。一社で月産200万台も作る大手供給メーカーも出てきています。

価格競争のメカニズムは明白です。顧客は大量の需要をこなすために、複数社から購買を狙う。供給メーカーは競合他社を意識して価格を提示する。顧客資材購買担当者は比較をちらつかせ、一層の価格低減を要求する。また別の視点では、顧客は新機種立ち上げでは当初、開発に強い日本メーカーから買う、そのうち需要が増加する

に従い、安く作る台湾、韓国メーカーが追従し低価格で参入を試み、攻防戦が始まる。価格は急激に下がり、破壊されていく。また物不足（新部品の製造歩留が悪いために供給難）の時、顧客購買担当は計画購入数の倍以上の数字をサプライヤーの我々に提示し、我々も部品確保に奔走する。その後歩留が改善され部品入手がいつでも容易になる時、顧客も購買調整に入り、供給側にキャンセルを行う。供給側は在庫過多が発生、その結果価格を下げて売りさばく。

学習効果を身につけ、在庫管理（サプライチェーンマネジメント（SCM））が強調され、在庫が極度に軽くなる。顧客の製品が市場で需要強となれば、資材購買担当が走り出す（倍の発注）。供給側は在庫が薄いため、急増供給ができず、部品確保に奔走。その結果既述の繰り返しで、何ら学習効果が現れない。飽きない市場です。

業務を通して海外は米国、西欧、北欧、東南アジア、中東、北アフリカなど訪問しました。国々の文化を目肌で感じることも出来ました。最近では台湾・韓国訪問が多くなりました。

## PCは台・韓が設計し中国で安く製造

この5年近くは、米国大手PCメーカーが台湾・韓国勢に設計・製造を委託。これら台湾メーカーが中国で製造展開する傾向です。その結果私は台湾・韓国そして中国本土詣でが多くなりました。

以前は部品の買い手側でしたが、売り手の立場として、台湾・韓国に頭を下げる状態と成っています。また台湾・韓国の部品メーカー、顧客と会議を行う時は、日本語が通用しましたが、ここ数年彼らには米国帰りの担当者が増え、また彼らの顧客が欧米系が多くなった（それだけ日本が弱くなった印象）ためか、会議は英語と化しています。

日本経済が弱体化した理由の一つに、「安く供給するために、海外進出」があり、この空洞化現象を荷担した者として複雑な心境です。技術立国日本を再現するために、新技術の開発に目を向けるよう努力しています。SARSのために中国・台湾訪問が中止されている現在、国内製造会社への見直しがされ、徐々に活況を呈しつつ在るようです。これが一過性ではなく、日本再生の機会となることを念じている次第です。

## 第3回多賀いちょう会ゴルフ大会

副部長 桜井 衛 (昭38電気)

好天が続く中、当日はあいにくの雨模様となりましたが、近江幹事長をはじめ難波靖治氏、鈴木日出男氏などの長老を始め、初参加の方3名を含め、総勢13名が御殿場の「太陽C・C」に集いました。いつもは富士山が真正面に見える風光明媚なコースですが、富士のお膝の下の方が、霧の中に一瞬チラリと見えた程度でした。それでも富嶽三十六景の一こまを思い浮かべたと風流人を気取っている人もおりました。

ネパール大学へよく行かれる鈴木さんからはドラゴン、ニアピン賞用にお土産のお茶を寄付していただきました。プレイ終了後のパーティでは時間を忘れるほど話が弾み、かなり遅くまで盛り上がりました。

### 成績発表

優 勝 北島正保 (昭39機)

準優勝 小林章夫 (昭39機)

三 位 兼子八郎 (昭38電)



太陽C・Cコースにて(霧の中で撮影)

## 東京支部に「山遊同好会」が発足

部長 小宅 仁 (昭36電気)

この度多賀工業会東京支部は、登山、ハイキングのお好きな方々に参加していただきたく「山遊会」という名称で山の同好会を発足いたしました。世話人は右記の方々であります。将来は「エベレスト登山を目指す」とネパール・トレッキングで鍛えている最高顧問の鈴木日出男さんが言っておりますが、これはあくまで最終目標です。通常は健康増進に役立ち、かつご家族が安心されるような年齢に応じたコースを、奥様を始め、ご家族の方々と一緒に和気あいあいと素晴らしい風景を見ながら、楽しく歩きたいと考えております。山は春夏秋冬それぞれ違った姿があります。いつ行っても素晴らしい姿にめぐり合います。今の季節なら新緑の木々と青い空、白い雲のコントラストなどとて

### 今回の参加者

難波 靖治 (昭23機) 近江 義勝 (昭28電)

鈴木日出男 (昭30原) 山口 宣之 (昭35機)

伊藤 紘一 (昭37機) 田北 嵩晴 (昭37電)

兼子 八郎 (昭38電) 黒羽 昇 (昭38精)

小林 渡 (昭38電) 桜井 衛 (昭38機)

駒場 方耀 (昭38機) 北島 正保 (昭39機)

小林 章夫 (昭39機) 計13名

次回の多賀工業会東京支部ゴルフコンペは10月か11月に行うことに決定しています。

新規に参加をご希望の方は下記のアドレスへ連絡をお待ちしております。

### 連絡先・メールアドレス

部 長 幸道 貞一 (昭22通)

〒232-0067 横浜市南区弘明寺町107-7

TEL 045-731-1738

E-mail happyroad@nifty.com

副部長 桜井 衛 (昭38機)

〒241-0831 横浜市旭区左近山2-24-502

TEL 045-351-6306

E-mail eisakura@orion.ocn.ne.jp



ゴルフの懇親会

も素晴らしく、登るにつれ、小鳥にめぐり合い、せせらぎの音も、耳に心地よく聞こえます。ブナの新緑の鮮やかさに感動される方も多いことでしょう。もうひとつの楽しみに温泉があります。下山して温泉で一汗流すのも楽しい思い出となるもので、後のビールは格別です。最近の登山者は中高年の方が半数以上しております。お会いする60才、70才以上の誰もが生き生きとして、健康的に楽しそうに歩いていらっしゃいます。楽しく健康的な山歩きを日指す同好会「山遊会」へのご参加をお待ちしております。

### 連絡先

部 長 小宅 仁 (昭36電)

〒205-0002 東京都羽村市栄町2-9-16

TEL/FAX042-554-5443 E-mail oyake@smile.ocn.ne.jp

副部長 菅谷 禎男 (昭42機)

〒150-0001 渋谷区神宮前3-26-14 TEL 03-3402-4090

E-mail mrsugataka@ybb.ne.jp

# 囲碁同好会その後の活動状況

## 東京支部囲碁同好会

平成12年2月に第1回多賀工業会東京支部囲碁大会を4名で開催してから、既に3年が経過しましたが、その間徐々に会員が増え、今年3月末現在で21名となりました。

囲碁大会は、第1回開催以降定期的に2月・5月・8月・11月の第2土曜日午前11時から、日本棋院東京本院で開催しております。大会は毎回5局対局

し、1局毎に勝者が1点を加点し、敗者が1点を減点する点数制を採用しており、これを基に段級を設定することになっています。段級の基準点は、七段184点・六段172点・五段160点・四段148点・三段136点・二段124点・初段112点・1級100点・2級88点・3級76点と1段級差12点にしております。互先は6日半込み出しです。第10回大会からは、対局時計を使用し、併せて、スイス方式による得点制で順位を決め、優勝・準優勝・3位・奨励賞（最下位）を表彰することになっています。

第10回大会以降の入賞者は下表のとおりです。

大会	優勝	準優勝	3位	奨励賞
第10回	新沼厚生 四段	照沼 清 四段	佐藤 馨 1級	小室秋生 四段
第11回	山下正明 六段	兼子八郎 二段	近江義勝 3級	関 英雄 四段
第12回	兼子八郎 二段	山下正明 六段	高田丈夫 二段	桜井 衛 二段
第13回	佐藤 馨 1級	田口嘉男 五段	照沼 清 四段	宮木敏夫 二段

また、大会終了後は毎回希望者による会員懇親会を、近くの料理屋で行い、楽しいひと時を過ごしております。

平成15年3月末現在の会員の卒業年度・学科・氏名・段級・持点は次のとおりです。

20専機 宮木 敏夫 二段 119点	22専通 幸道 貞一 初段 110点	28学機 関 英雄 四段 139点
28学機 小白井和典 三段 129点	28学機 高田 丈夫 二段 132点	28学電 近江 義勝 3級 73点
29学金 照沼 清 四段 150点	30学原 石川 英二 二段 124点	31学原 山崎慎一郎 初段 111点
32学電 小室 秋生 四段 142点	32学電 高橋 武雄 2級 94点	32学電 田口 嘉男 五段 165点
32学電 田崎 耕八 二段 128点	32学電 山下 正明 六段 181点	33短電 佐藤 馨 1級 104点
34専機 高橋 孝雄 三段 129点	36学金 小室 哲夫 四段 149点	38学機 桜井 衛 二段 119点
38学電 兼子 八郎 二段 129点	38学電 新沼 厚生 四段 142点	40学化 田中栄太郎 四段 151点

なお、同好会のより一層の発展を期すため、囲碁部とし、第14回から部長を1名、副部長を2名に増員します。

同部に入部を希望される方は下記の部長または副部長にご連絡してください。

### 連絡先

部 長 山下正明 (昭32電気)  
〒178-0065  
練馬区西大泉3-25-10  
TEL・FAX 03-3922-2143  
Email yamashita2143@mbh.nifty.com

副部長 田崎耕八 (昭32電気)  
〒187-0024  
小平市たかの台32-1-358  
TEL・FAX 042-342-2566  
Email kouhachi@jcom.home.ne.jp

副部長 桜井 衛 (昭38機械)  
〒241-0831  
横浜市旭区左近山団地2-24-502  
TEL045-351-6306  
Email eisakura@orion.ocn.ne.jp

第13回大会終了後の記念写真 (於 日本棋院1階ロビーで)



前列左より石川英二・山下正明・近江義勝・高田丈夫・小白井和典・佐藤馨  
後列左より照沼 清・小室哲夫・桜井 衛・関 英雄・田口嘉男・田崎耕八  
田中栄太郎・山崎慎一郎・宮木敏夫

# 多賀いちょう会写真同好会 堀切菖蒲園で第1回撮影会

山崎 慎一郎 (昭31原動)

当写真部が発足し初めての催事として、去る6月21日(土)に堀切菖蒲園の花菖蒲の鑑賞を兼ねた撮影会を行いました。

10時に、京成電鉄本線「堀切菖蒲園」駅前に集合し、5名が一緒になって下町情緒溢れる町並みを見ながら「堀切菖蒲園」まで歩いて行きました。

現在会員は7名ですが、参加者は玉川信二(昭和28電気)会長、鈴木日出男(30年原動)、林輝(36年機械)、山崎慎一郎(31年原動)の4名、そして講師としてお招きしました齊田和夫(昭和28年機械)氏でした。

講師の齊田さんは、全日本写真連盟埼玉県本部委員を務められておられる方で、先ず撮影に際しての基本的な考え方と技術のお話しをして下さいました。その後一同は、1時間30分ほど自由行動で撮影を行いました。この日は好天に恵まれて、汗をかきながらの撮影会となりましたが、水も飲まずにシャッターを切っておられる方がおりました。この人曰く、ビールがまずくなるからと。撮影会終了後は、昼食を兼ねた懇親会を、駅前の蕎麦屋の2階でおこない、延々と写真談義に花が咲きました。

撮影した作品は、本年の10月25日に開催される東京支部総会の時に展示する予定であります。



撮影風景

## 東京支部写真同好会会則

1. 名称 本会は多賀工業会東京支部写真同好会(通称多賀いちょう会)と称する
2. 目的 本会は写真撮影を通じて会員の写真技術の向上、および会員相互の親睦を図る事を目的とする。
3. 資格 本会は多賀工業会会員及びその家族で構成するが、会員が推薦し会長が承認した者は入会できる事とする。
4. 撮影会 本会は撮影会を年2回開催する事を原則とする。
5. 展示会 本会は支部総会時会場で、または適当な時期・会場にて作品展示会を実施する。
6. 勉強会 適当な時期に会員の技術および知識の向上のため勉強会を開催する。
7. 役員 本会には次の役員を置く。

顧問	1名
会長	1名
幹事	若干名

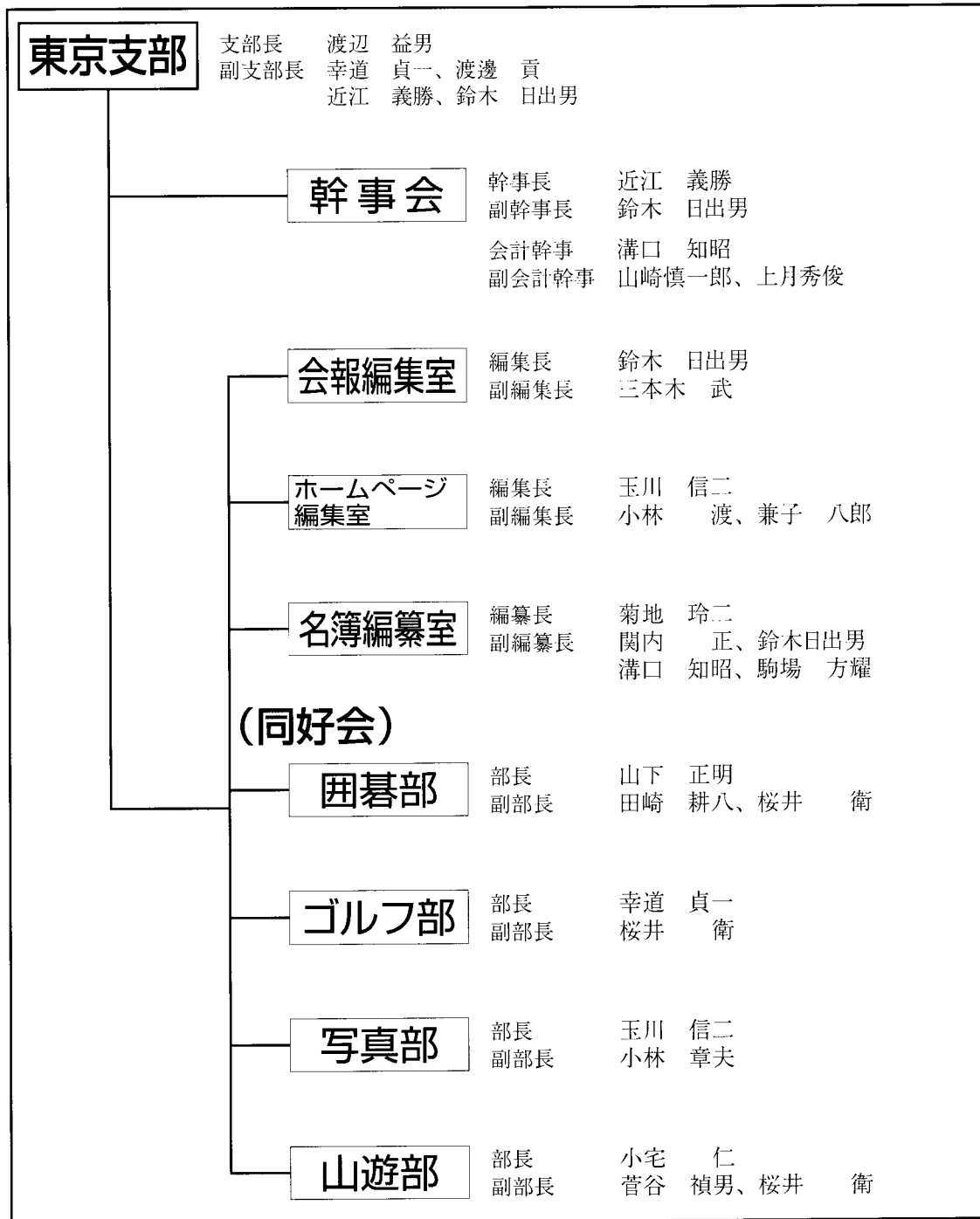
  - 7.1 会長は会員の推薦にて選出する。
  - 7.2 幹事は会長が選出する。幹事は持ち回り制とし、一つ行事が終了後交代するものとする。



花菖蒲が咲き乱れている堀切菖蒲園

# 多賀工業会東京支部の組織と担当役付名

(平成15年4月1日現在)



以上のほか、多賀工業会本部の役員として次の各氏が就任している。

本部副理事長 渡辺 益男

本部理事 幸道貞一、近江義勝、鈴木日出男、溝口知昭

# 東京支部幹事会名簿

(平成15年4月1日現在)

氏名	卒年学科	郵便番号	住所	電話番号	備考(担当役付名)
渡辺 益男	19精	202-0021	西東京市東伏見1-8-5	0424-63-9665	本部副理事長、支部長
幸道 貞一	22通	232-0067	横浜市南区弘明寺町107-7	045-731-1738	本部理事、副支部長、ゴルフ部長
渡邊 貢	26原	963-7773	福島県田村郡三春町深田和151-6	0247-62-2468	副支部長
菊地 玲二	26通	155-0031	世田谷区北沢2-7-14	03-3467-0201	名簿編纂長(工専担当)
関内 正	26精	191-0032	日野市三沢2-6-44-106	042-594-7610	名簿副編纂長(工専担当)
近江 義勝	28電	113-0032	文京区弥生2-8-6	03-3811-7088	本部理事、副支部長、幹事長
玉川 信二	28電	167-0053	杉並区西荻南1-7-17	03-3332-6889	ホームページ編集長、写真部長
鈴木 日出男	30原	364-0035	北本市西高尾1-248	0485-92-2889	本部理事、副支部長、副幹事長 会報編集長、名簿副編纂長(大学担当)
三本木 武	30金	173-0003	板橋区加賀2-3-1-303	03-3961-0248	会報副編集長
山崎 慎一郎	31原	194-0023	町田市旭町3-18-3	0427-28-0770	副会計幹事
瀬在 城雄	31原	180-0003	武蔵野市吉祥寺南町4-21-21	0422-46-5208	
溝口 知昭	32機	355-0011	東松山市加美町2-7	0493-25-1683	本部理事、会計幹事、名簿副編纂長(大学担当)
矢野 睦男	32原	227-0044	横浜市青葉区もえぎ野10-56	045-973-0739	
榊原 康夫	32原	271-0064	松戸市上本郷1-3281	047-363-1017	
山下 正明	32電	178-0065	練馬区西大泉3-25-10	03-3922-2143	囲碁部長
田崎 耕八	32電	187-0024	小平市たかの台32-1-358	042-342-2566	囲碁副部長
佐藤 馨	33電	178-0064	練馬区南大泉2-26-4	03-3923-8618	平成15年総会幹事
藤田 邦男	34機	192-0056	八王子市追分町10-4-901	0426-27-6734	
篝 能晴	34原	158-0096	世田谷区玉川台1-2-13-402	03-3700-1193	
千葉 克男	34電	191-0023	日野市下田352-21	042-584-9588	
結城 佑	34電	192-0907	八王子市長沼町134-226	0426-35-9500	
山口 宣之	35機	216-0002	川崎市宮前区東有馬3-8-16-402	044-855-1350	
小宅 仁	36電	205-0002	東京都羽村市栄町2-9-16	042-554-5443	山遊部長
上月 秀俊	36機	165-0034	中野区大和町3-21-12	03-3337-1300	副会計幹事
田北 嵩晴	37電	244-0812	横浜市戸塚区柏尾町815-32	045-823-5802	
駒場 方輝	38機	193-0941	八王子市狭間町1800-43	0426-65-8387	名簿副編纂長(大学担当)
桜井 衛	38機	241-0831	横浜市旭区左近山団地2-24-502	045-351-6306	囲碁副部長、ゴルフ部副部長、山遊部副部長
小林 渡	38電	241-0816	横浜市旭区笹野台27-25	045-363-0785	ホームページ副編集長
兼子 八郎	38電	247-0026	横浜市栄区犬山町65-8	045-891-2232	ホームページ副編集長
小林 章夫	39機	226-0028	横浜市緑区いぶき野65-18	045-984-1066	写真部副部長
菅谷 禎男	42機	150-0001	渋谷区神宮前3-26-14	03-3402-4090	山遊部副部長

# 平成14年度年会費納入者

(平成14年4月1日～15年3月31日まで)

(敬称略、順不同)

16年機	大矢 純一	19年精	岡部 萌生	23年金	山崎 義一	26年金	有賀 久
16年機	森本 裕	19年精	渡辺 益男	23年金	菊池 秀利	26年金	萬目 義郎
16年原	林 義雄	19年金	雨貝 忍	23年金	蓑田 栄	26年通	菊池 玲二
16年原	佐野 健蔵	19年金	大鷹 浩介	23年金	村山 昭平	26年船	井坂 孝
16年精	浅田 敬三	19年電	浅見 隆	23年金	相沢 力	28年機	小白井和典
16年精	敦賀 草三	19年電	関口 利男	23年電	塩野 譲	28年機	坂場 昭二
16年金	池上 駿三	19年通	酒井 忠光	23年電	保坂 昭三	28年機	高田 丈夫
17年機	岡崎 幸晴	20年機	岡本 公夫	23年通	木内 昭男	28年原	山口 茂男
17年機	大野三知雄	20年機	宮木 敏夫	23年通	松沢 清次	28年原	柳澤 裕
17年機	田辺 邦行	20年原	海老原謙次郎	23年通	荒川 宣夫	28年電	白瀬 達郎
17年精	足立 高嶺	20年原	友保 伊弘	23年通	馬場 昭	28年電	藤田 史郎
17年原	小泉 保朗	20年精	田島 広一	23年通	広瀬 琢朗	28年電	稲見 孝
17年原	鏑木 正	20年精	山田初太郎	23年通	岡山 保男	28年電	中原 太平
17年金	川合 泰也	20年電	乙黒 正春	23年船	森 栄一郎	28年電	橋本 久美
17年金	田辺 良美	20年電	柴田 信夫	23年電	斎田 耕平	28年電	近江 義勝
17年金	依田 連平	20年電	竹内 靖夫	23年電	千野 吉治	28年金	赤城 清
17年電	小林 幹	20年電	加藤 康裕	24年電	白石 寿夫	29年機	雨澤 道雄
18年機	飯塚 節夫	20年電	堀尾 一彦	24年電	前川 信雄	29年機	今村 純一
18年機	山本 栄治	20年電	石坂陽之助	24年原	真中 和夫	29年原	大久保半吾
18年機	宮崎 至誠	22年金	明石 和夫	24年通	戸木 礼一	29年原	奥野 真治
18年金	市島 健男	22年金	沼 鶴彦	24年船	飯野 二郎	29年金	照沼 清
18年金	山田 実	22年通	今井 俊夫	24年船	小峰 弘	29年金	古林 久孝
18年電	関根 宗一	22年通	小塚 潔	24年船	杉山 六郎	30年機	松沢 勝海
18年電	八角 方二	22年通	幸道 貞一	24年機	福地 三郎	30年機	佐藤 久弥
18年電	北条 英雄	22年通	谷口 貞作	24年機	若林 麟介	30年機	田口 忠夫
18年精	立枝 茂男	22年通	中山 淳二	24年精	鳥山 尚利	30年原	石川 英二
18年精	鈴木 保光	22年通	林 猛雄	24年精	檜山 広	30年原	鈴木口出男
19年機	大和田光徳	22年通	平林 立	24年精	平木 康一	30年電	木村 好延
19年機	土屋 正雄	22年通	保坂 博	24年電	浦井 猛	30年金	三本木 武
19年機	平山 光信	22年通	丸 武志	24年原	久須見 弘	30年金	黒沢 正蔵
19年原	金子 恒雄	23年機	高田 浩	25年原	忍田 邦夫	31年機	新田 和夫
19年原	川尻 悦三	23年機	梅田 政夫	25年精	加藤 達男	31年機	横山 亨夫
19年原	栃本 二郎	23年機	難波 靖治	25年精	京野 五一	31年機	高橋 義博
19年精	小泉 篤	23年原	飯島 公正	25年電	村山 錦右	31年原	山崎慎一郎
19年精	小泉 正男	23年原	内田 昭三	25年電	塩田 昭三	31年原	瀬在 城雄
19年精	小松 定男	23年原	藤原健之輔	25年電	高橋 清	31年電	大内 孝
19年精	柴 敏夫	23年原	名島 龍雄	26年原	渡邊 貢	31年電	葛西 四郎
19年精	白石 精	23年原	大井 修	26年精	関内 正	31年電	藤川 俊明
19年精	田中 義一	23年原	照沼 三夫	26年精	藤本 史郎	31年金	細井 陽子
19年精	柳田 裕美	23年原	岡野 有佐	26年精	橘 清三	32年機	川又 俊夫

32年機	平沢 正一	34年電	結城 祐	38年電	遠藤喜久男	40年電	飯野 嘉郎
32年機	伊藤 義次	35年機	高野 久弘	38年電	兼子 八郎	40年金	松本 二郎
32年機	溝口 知昭	35年機	山口 宣之	38年電	小林 渡	40年精	大泉 雅靖
32年機	坂本 俊雄	36年機	柏木 尚	38年電	橋 弘	40年化	田中栄太郎
32年機	柴田 勇治	36年機	上月 秀俊	38年電	広瀬 行一	42年機	菅谷 禎男
32年電	小室 秋生	36年機	林 輝	38年電	橋本 政巳	42年電	伊藤 征洋
32年電	渡辺 英雄	36年電	岩橋 靖雄	38年電	坂野 栄	42年精	下ノ村 勇
32年電	田崎 耕八	36年電	八田 敏行	38年金	梶山 国男	42年金	小園井 健
32年電	榊原 康夫	36年電	佐川 文雄	38年化	高木 二郎	42年電	小林 健三
32年原	矢野 睦男	36年電	小宅 仁	39年機	笥 逸男	42年電	浜野 紘一
32年原	越田 俊郎	36年金	鈴江 芳男	39年機	小林 彰夫	42年電	下山田弘行
33年機	照沼 義光	37年機	野本 光彦	39年機	持田 幸武	44年子	常盤 浩史
33年機	奥 康治	37年電	田北 宗晴	39年電	大原 広哉	45年電	永木 利夫
33年原	吉久保節男	37年電	西川 正登	39年電	菅野 英臣	46年電	飯塚 英一
33年原	山崎 勝雄	37年金	橋本 善巳	39年金	河野 公志	46年電	石川 守男
33年電	鳥居 由幸	37年金	篠原 康祐	39年金	横山 安行	46年電	狩野 守
33年機	三浦 陽	37年化	阿部 徳治	39年精	山口 文夫	46年子	大崎 孝明
33年電	佐藤 馨	37年化	須田 弘	40年機	伊藤 正俊	46年子	栗原 功幸
33年電	伊藤 誠二	37年化	萩原 確二	40年機	大塚 由則	46年子	安田 健博
33年原	田代日出夫	38年機	駒場 方耀	40年機	熊倉 通	49年金	松田 研治
34年機	藤田 邦夫	38年機	三上 季彦	40年機	栗原 宏一	52年機	角田 瑞彦
34年原	篝 能晴	38年機	桜井 衛	40年機	武田 紀男	53年電	水島 好彦
34年原	高野 史男	38年機	牧山 永三	40年機	高野 隆明	平4年精	秋山 英樹
34年電	千葉 克男	38年電	今橋富美男	40年電	山崎 輝行	平8年院	東 学

合計 256名

## 多賀工業会の ホームページを見よう

多賀工業会のホームページを見たことがありますか。ネットサーフィンの好きな人でも多賀工業会のものはまだの人が多いのではないのでしょうか。

工業会のホームページは、今年4月からすっかり新しくなって、URLが変わり、体裁も内容も一新され、他の大学の同窓会のものに全然引けをとらないほどの立派なものになりました。

内容項目は、工業会とその支部の紹介に始まり、各支部の行事予定・行事報告、多賀出身の活躍人のこと、掲示板までである多彩なものです。これをぜひよく読んで頂いて、支部の行事に参加し、同窓生同志の交流を深め、工業会の発展

に寄与しましょう。

また支部の行事は大小に係らずホームページに発表し、一人でも多く参加できるようにいたしましょう。

ホームページを見る方は次のURLへ：

<http://www.taga.admt.ibaraki.ac.jp/>

ホームページへ発表したい方は

東京支部では：

玉川 信二（昭28年 電気）

TEL 03-3332-6889 sh-tamagawa@jcom.home.ne.jp

小林 渡 （昭38年 電気）

TEL 045-363-0785 koba-wt@nifty.com

兼子 八郎（昭38年 電気）

TEL 045-891-2232 nyanko8686@hotmail.com

にご連絡下さい。

## 東京支部に「写真同好会」を新設 第1回撮影会を6月に実施

部長 玉川信二（昭28電気）

多賀工業会東京支部では、同好者の集いを通し技術の向上を図りつつ、会員相互の親睦を図ることを目標に、ゴルフ部、囲碁部に続き、3つ目の同好会として写真部（通称：多賀いちよう写真会）を新設しました。

早速第1回として6月21日（土）堀切菖蒲園で5名の参加で開催しました。当日は好天に恵まれ、撮影開始前に齋田講師の懇切丁寧な撮影技術の解説がありました。会員は良い写真が撮れたようです。撮影会後、近くのソバ屋で盃を傾け写真談義もあり楽しい一日でした。

今後、年2回の撮影会並びに他の支部写真部（埼玉支部）との合同行事などを通じ技術の向上、会員の絆を深めつつ、撮影された作品は、総会時に展示の予定です。また今回同様撮影会には齋田和夫さん（現全日本写真連盟埼玉県本部役員、元マミヤ光機役員 昭28機械）が同行して、ご指導いただけることになっています。

そこで、参考までに同会の会則を本号の15ページに掲載してあります。同好の士には、この際積極的にご参加くださることをお待ち申し上げております。

入会をはじめ写真部に関する問い合わせは下記にお願い致します。

### 連絡先

部長 玉川 信二（昭28電気）

〒167-0053 杉並区西荻南1-7-17

Tel 03-3332-6889

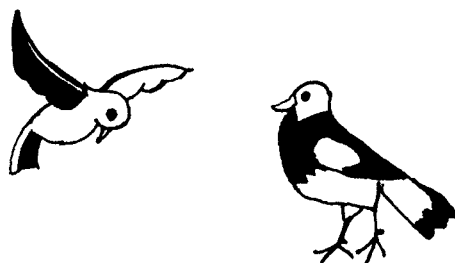
E-Mail sh-tamagawa@jcom.homone.jp

副部長 小林 章夫（昭39機械）

〒226-0028 横浜市緑区いぶき野65-18

Tel 045-984-1066

E-Mail n-koba@fr.catv.ne.jp



## 編集後記

世界に目を向けると、パレスチナ問題、イラク戦争後の問題、アフガンの和平の問題、アルカイダのテロの問題、新型肺炎SARSの問題、国内では、株価の下落、デフレ、リストラ、有事法、金融危機による公的資金の注入等、問題だらけのこの頃です。

しかし支部の皆様のご協力によって、「支部会報第6号」を発行することが出来ました。

しかも、新たにホームページも開設され、新しく同好会として「山遊部」、「写真部」も発足しました。

同窓会は、心のやすらぎとなる空間です。また、会員相互の絆を強くする所でもあります。多くの会員の参加をお願い致します。

新たに編集部員として小林 渡（昭38電）、兼子八郎（昭38電）の2名が委員に加わりました。

### 編集担当委員

鈴木 日出男（昭30学原）

三本木 武（昭30学金）

山崎 慎一郎（昭31学原）

溝口 知昭（昭32学機）

小林 渡（昭38学電）

兼子 八郎（昭38学電）

### 東京支部会報〔第6号〕

発行 平成15年8月1日

発行者 渡辺 益男

東京都豊島区池袋4-4-8

(株)渡辺建築事務所内

TEL 03-3987-1946(代)

# 多 賀 工 業 会

## 東 京 支 部 会 則

昭和60年6月7日

1. 本会は、多賀工業会東京支部と称する。支部事務所は、東京都千代田区麴町1-4東條会館内におく。  
会員は、多賀工業会会員のうち東京並びに近隣に在住在勤する者で組織する。
2. 目的と事業
  - 1) 会員相互の親睦を図る。
  - 2) 情報交換の場とする。
  - 3) 発展向上のための講演会及び研修会などを行う。
  - 4) 本部理事会に建設的な意見具申をして、母校の発展と会員相互の利益を図る。
3. 役 員
  - 1) 役員は、支部長1名・副支部長若干名・幹事(卒業年次毎に各1名以上)とする。
  - 2) 幹事長1名・会計1名・会計監査2名は役員の中より支部長がこれを委嘱する。
  - 3) 役員を選出は会員の中から総会で決定する。任期は2年とし、重任を妨げない。
  - 4) 本会は総会の議決をもって別に顧問・相談役などをおくことができる。
4. 運 営
  - 1) 総会は、年1回開催する。それ以外に必要性が生じた場合は役員会へ図る。
  - 2) 役員会は、支部長が運営上必要と認めた役員をもって開催し、出席者の3分の2以上の賛成を得たものを決議事項とする。
5. 会 計  
会の運営は、年会費、行事出席者よりの徴収会費、寄附金および本部補助金でまかなう。会計年度は4月1日より翌3月31日とする。
6. 総会開催日は、多賀工業会会報誌面に発表するとともに書面にても通知する。

注) 3…改正、4…一部追加、5…一部改正、6…一部追加

平成9年9月27日

# 多賀工業会東京支部總會々場



## ご婚礼・ご宴会・お写真

【 会議・美容・着付け  
出張パーティー 】

パンフレットをお送り致します。

## 東条インペリアルパレス

半蔵門 東条會館 ☎ 3265-5111  
〒102-8525 東京都千代田区麴町1-12

## K.K. 渡辺建築事務所

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-4-8

TEL 03-3987-1946 FAX 03-3985-3433

代表取締役 渡辺 益男 (昭19専精)

設計した主な顧客

(官庁)

東京都庁

各区役所

埼玉県庁

川口市等

その他

(民間)

本田技研工業(株)

信越科学工業(株)

日本マタイ(株)

トステム(株)

その他

建築設計監理

(コンサルタント)

著書 工場建築デザイン

(日刊工業新聞社)

平成7年5月出版

■決め手はパテント！

## 葛西・糟谷特許事務所

弁理士 葛西 四郎 (大学電気 31年卒)

〒105-0004 東京都港区新橋 6-6-9 岡田ビル4階

☎ 03-3438-1618 FAX 03-3438-1619

(事業内容) 出願・審判・判定・鑑定・訴訟・その他  
技術・法律上の新規・困難な問題にも  
創造的に対処することが出来ます。